

あなたのまちの「民生委員児童委員」ってどんな人？

「ちょっと困ったな」「誰かに話を聞いてほしい」——そんなとき、そっと寄り添ってくれる人がいます。それが、民生委員児童委員です。

民生委員児童委員は、地域の暮らしを支えるボランティア。生活の悩みや子育ての不安、高齢者の見守りなど、様々な困りごとに耳を傾け、行政や福祉サービスにつなぐ「地域の相談役」・「行政との橋渡し役」として活動しています。

3年ごとに改選が行われており、今年12月1日から新たな委員体制でスタートします。

今回は、長年にわたり活動を続ける委員に、それぞれの活動内容ややりがいなどについてお聞きしました。



Voice



丸亀市民生委員児童委員
協議会連合会副会長
武田 龍広さん
活動歴18年

民生委員児童委員として、一人暮らしの高齢者のお宅を定期的に訪問し、安否を確認したり、日々の様子を見守ったりしているほか、子育て中のご家庭からの相談にも耳を傾けて、必要な支援につなげるよう心掛けています。また、地域の行事などにも参加しており、住民同士のつながりを深めることも大切な役割だと感じています。

やりがいは、感謝の言葉だけではありません。「誰かの力になれた」と感じる瞬間が、何よりの励みになります。難しい課題に直面すること

もありますが、市社会福祉協議会のサポートや仲間の協力で乗り越えています。

特別な資格は必要ありません。「地域のために何かしたい」という気持ちがあれば十分。私も最初は不安でしたが、仲間がいて支え合える環境があるので、仕事と両立しながら始めることができました。今は、委員の高齢化や担い手不足が課題になっています。地域の安心を守るために、新しい力が必要です。あなたも一緒に活動してみませんか？



丸亀市民生委員児童委員
協議会連合会
主任児童委員部会 副部会長
瀧川 忍さん
活動歴8年10か月

活動を始めたきっかけは、退職後、「保育士としての経験を地域福祉のために生かせないか」と考えていたときに、前任者から声を掛けていただいたことでした。

主任児童委員として、子どもや子育て家庭の支援を専門に、民生委員児童委員と連携しながら、児童相談所や学校などの関係機関と協力して活動しています。地域行事などで子どもたちと触れ合い、顔を覚えてもらえたときや信頼関係が築けたと感じる瞬間は、何よりうれしく、大きなやりがいになっています。

また、月1回の定例会では、福祉や子どもに関わる専門職の人たちからお話を聞く機会があり、現場で役立つ知識を得られるだけでなく、自身のスキルアップにもつながっています。

家庭の事情に関わる場面では、慎重な対応が求められますが、学校や民生委員児童委員、行政と連携しながら、地域全体で子どもたちを支える体制づくりに取り組んでいます。これからも、子どもたちが安心して過ごせる地域づくりのために、少しでも力になれたらと思っています。

あなたの一歩が、地域の未来に

「民生委員児童委員」は、民生委員法に基づいて厚生労働大臣から委嘱され、無報酬で活動する非常勤の地方公務員です。市では201人（令和7年12月1日時点）の人たちが活躍しています。現在、市内では5人の欠員があり、地域の支え手として活動してくれる人を募集しています。

また、市内には、民生委員児童委員以外にも地域福祉のために活動する「福祉ママ」や「福祉協力員」がいます。福祉活動に興味のある人は、福祉課 ☎24-8873 または 市社会福祉協議会 ☎22-5700 までお問い合わせください。



小学校の校外学習で、民生委員児童委員が子どもたちに地域の歴史を分かりやすく伝えている様子